

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3470501481		
法人名	医療法人社団 永楽会		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地 (電話番号)	呉市中央二丁目6番20号		(電話) 0823-25-2110
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成20年6月26日	評価確定日	平成20年7月8日

【情報提供票より】(20年6月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	(新築) / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	8 階建ての	階 ~ 8 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(6月8日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	5 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名	
要介護3	2 名	要介護4	名	
要介護5	名	要支援2	名	
年齢	平均 83.6 歳	最低	73 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団永楽会 前田病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「かがやき」は、市内の中心部に位置し交通の利便性がよく、また、関連の医療機関や福祉・介護施設の協力を得ながら利用者への医療と介護への支援体制が整えられている。職員全員で共有し、図られているケアの意見の統一の一つとして、利用者一人ひとりの出来ることや要望に応じて、例えば共用空間の清掃や菜園の手入れ、食事一連の関わりなどを自主的に行っていただき、これには職員は側面から支援することに徹しており、利用者の方々と職員間では、おかげさま、お互いさま、感謝の関係づくりが出来ているようである。また、多くの利用者が日常生活の中での楽しみや目標とされている、ホームと同じ建物内にある関連の医療機関へのリハビリや、地域の顔馴染みの商店等に散歩を兼ねて外出する際には、利用者同士が笑顔で声を掛け合いながら、時には手を取り合って出かける姿を見ると、利用者同士の支え合う関係づくりと生活感と存在感が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、所轄の行政関係者との連携や関係づくりを今以上に期待されていたが、その後の取り組みの一つとしては運営推進会議に地域包括支援センターの関係者が参加される機会を捉えて、事業所の実情や取り組みを折りに触れて伝えるなどしながら協働関係を継続している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 事業所全体で自己評価の目的や活用方法を話し合い、よく理解し、職員全員で取り組まれており、評価で明らかになった課題についてミーティングで話し合い、一つひとつ積み上げていくようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、事業所の実情や取り組み及び地域密着型サービスとしての事業所の役割等を伝えるとともに、所轄の行政及び地域包括支援センターの職員や地域の代表者及び家族等から多くの意見等を受けて双方向的な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 常日頃から職員全員は家族等と顔の見える関係づくりと、何でも言ってもらえる関係づくりに留意して、家族等から得られた意見等は前向きに受け止めて、ミーティングで話し合い、サービスに反映させていく体制が設けられている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的に散歩や顔馴染みの商店に買物に出かけたり、職員と共に地域活動の一つである資源ごみの収集に出かけたりして、近隣の人達と挨拶を交わしながら、顔馴染みの関係と交流の輪を広げられている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映したホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常日頃から理念については職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に散歩や顔馴染みの商店に出かけた際には、近隣の人たちへの声かけなどを繰り返しながら、行き来のきっかけづくりを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所全体で評価の意義と活用方法を話し合った上でよく理解し、職員全員で取り組んでおり、その結果を踏まえ改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの実情や取り組みの報告と共に、参加者からも多くの意見や質問等を受け、これらを改善に向けた具体的な取り組みと、地域の理解と支援を得るための貴重な機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域の行政担当者や地域包括支援センターの職員に事業所の実情や運営やサービスの課題等を伝えながら、共に取り組んで行く関係づくりに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している広報紙や、家族等の来訪時を捉えて現在の報告をし、また、他には個別に電話などで様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の来訪時には常に問いかけ、出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっているが、やむを得ず職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できる体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修には、出来るだけ多くの職員が参加できるようにしており、また、職員が日々の体験を学びにつなげていくための、OJT教育にも取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所独自としての他同業者との交流は体制が出来ているが、機会がなく実施には至っていない。しかし、管理者と職員個々は他同業者との交流や学習会の機会を持っており、事例検討等を通じて、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず、すぐに利用になった場合には、家族等と十分に話し合いながら、本人と家族にあった個別の利用開始の調整を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	多くの利用者の得意分野で力を発揮してもらい、おかげさま、お互い様、感謝するという関係性を築きながら支援を行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、また、表情や言葉などからその真意を推し測ったりしながら思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の視点にたつて、必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画を作成している。また、モニタリングやカンファレンスは職員全員で行っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは勿論のこと、本人や家族に介護計画で対応できない要望や変化が生じた場合には、実情に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	併設の医療機関や福祉・介護施設と連携しながら、多 様な機能を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	家族等と受診時の通院方法、情報の伝達方法につい て話し合い、合意の上で事業所の協力医療機関をか かりつけ医として適切な医療を受けられるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	入居時には、重度化に伴う事業所が対応し得る最大の ケアについてを書面で説明をし、また、本人や家族の 安心と納得が得られるように、本人や家族、事業所の 状況の変化のたびに、話し合いを繰り返している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	職員全員は、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシー を損ねないように、目立たずさりげない言葉かけや対応 の徹底を図っており、尊厳の保持が図られている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が主体となってその人らしい生活が出来ることを基 本とした上で、一人ひとりのペースを守りながら日々 の中で職員同士が工夫して支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等の食事一連の流れを、利用者の意志や気持を大切にして進めている。また、ホームの菜園で採れた季節の食材を使って調理したり、時には利用者と職員が共に外出に出かけるなどしながら食事を楽しみや喜びにつなげている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居前の本人の生活習慣や、その日の希望や状態に合わせて柔軟な入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	常日頃から、得意分野で利用者一人ひとりの力を発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、利用者全員と職員が共にでお花見等の外出の楽しみごとを相談しながら行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩だけではなく、近隣の顔馴染みの店や場所に出かけている。また、関連の医療機関に多くの利用者の方がリハビリに出かけることが、日常生活の中での楽しみと目標となっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所全体で鍵をかけない暮らしの大切さについて認識しており、安全に過ごせる工夫をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害等に関するマニュアルを作成し、関連の医療機関や福祉・介護施設との合同避難訓練の実施や、協力体制の構築がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの一日の食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有しながら、暮らし全体を通じた個別の食の支援を行っている。また、関連施設の管理栄養士の専門的なアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、五感刺激への配慮が行われており、また、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら、利用者にとって居心地のよい場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた身の回りの品物を傍に置いておくなど、個別に応じた工夫を行いながら本人が居心地よく過ごせるような配慮をしている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームかがやき

評価年月日 20 年 5 月 24 ~ 31 日

記入年月日 20 年 6 月 8 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 富山みさこ

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開設当初に導き出した理念を念頭に日々の介護を展開している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関とスタッフデスクに理念を掲げ、常に意識付けをしている。 迷いが生じたときは、常に管理者、職員間で話しをしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族ほか面会者、訪問者に分かっていただけるように玄関に明示している。 運営推進会議を利用し、理念の浸透に努力している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域的に隣近所と親しくするのは難しいが、散歩や買い物、資源ごみ出し等で、こちらから挨拶する努力をしている。また縁のあった人には「また寄ってください。」「また遊びに来てください。」の声かけに努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	孤立してはいないが地域的に隣近所と特別親しくしたり交流することは難しい。運営推進会議を通じ、ホームの行事に参加してもらおう取り組みを行っている。 日常的には毎日のリハビリ通院を通じ、顔なじみができたり、買い物の途中で馴染みの店に寄る等をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通じ、地域の独居老人に遊びに来てもらったり、訪問したりといった取り組みができないかと民生委員に申し出ているが、道のは遠いようだ。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員が理解し、一歩ずつ改善できるように取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政からのアドバイスや会議構成員の意見を参考に、一歩ずつ前進できるように取り組んでいる。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	所轄の地域包括支援センター職員や福祉保健課職員に運営推進会議に参加してもらっているが、それ以外の行き来はない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修を利用し、管理者はじめ職員個々に学ぶ努力をしている。 過去・現在の利用者には、制度の活用が急務な利用者は居ない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者と職員が外部研修の機会を持ち、伝達講習により職員全員に伝え、常に考えてもらえるよう努めている。また職員同士声掛けをして見過ごさない努力をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必要な時間をかけ、十分な説明と同意を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の不満や意見は真摯に受け止め、可能な限り改善の努力をしている。が実際 大きな不満や意見は聞かれない。 外部者へあらわせる機会として介護相談員の訪問を受け入れている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	日常の様子やホームの変化は、毎月発行している新聞で報告しているほか面会時にお伝えしている。また個別の事柄(健康状態、金銭出納など。緊急性のあるものは電話で)は個々に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に話を聞くほか、玄関にご意見箱を設置している。またケアプランの見直し前には電話や手紙を利用し、家族の声を聞いている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はグループホーム内での職務が常態であり、日々介護職員の意見・提案を取り入れることができる。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者が利用者の心身の状態やホームの状態(行事や設備面や職員の状態)を熟知しており、常に勤務の調整ができる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>法人全体で認知症に対する理解を深め、馴染みの人間関係の大切さを理解している。 (H19年度中の異動・離職・採用なし)</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。</p>	<p>日々がトレーニングであり、意見交換を大切にしている。 施設内外研修も適宜取り入れている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>H19年度中は事業所同士の交流はなかったが、過去に他グループホームとの合同行事の経験あり。また管理者同士、職員同士の個々のネットワークによる交流はみられる。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者は日常的に職員とコミュニケーションを持ち、個々の悩みを聞き相談に乗る努力をしている。また業務上の不都合(物品の補充や職場環境)の改善に一歩ずつ取り組んでいる。また法人全体の歓迎会、納涼会、忘年会によるストレス発散の機会がある上、運営者は職員個々に労いの言葉をかけてくれる。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は職員の負担のない勤務日程を組む努力をし、日々のコミュニケーションで実績や努力を認め共に喜び合っている。 運営者は忘年会等の機会に職員に声をかけてくれてグループホームの実績と努力を認めてくれている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">安心と信頼に向けた関係づくりと支援</div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>よく話を聞き、安心して利用していただけるよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	よく話を聞き、安心して利用していただけるよう努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム入居は一つの手段であって、迷っている利用者・家族様には必要な情報を提供し、十分に考える時間を持ってもらえるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービス利用 = 入居であり、“慣らし”の利用は困難。しかし初めから何もかも準備して利用者の帰る場所を奪わないような対応をする等の個別対応を家族と相談しながらすすめている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームの特性として、入居者から学ぶ、入居者と共に行う、一緒に過ごすことを大切にしながら生活を、職員全員が実践している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や時には電話・手紙で家族とコミュニケーションをとり、家族の悩みも喜びも受け止める努力をしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居者が落ち着くことで、家族も落ち着いて入居者と向き合うことができる。家族関係の情報収集と共に、グループホームでの情報（良い場面）を多く伝えるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の希要望、家族の要望を聞き、可能な限り外出や外泊、面会を支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い、気まずい、一人が好き、一人は寂しい、体調の良し悪し等 一人ひとりを良く知るほか、その時の体調を十分考慮し、利用者同士が協力し合い支えあう場面を大切に、環境設定する。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用の終了は主に入院である。利用者のお見舞いに行ったり、家族と引き続きコミュニケーションを図り、今後の生活や介護の相談に乗る努力をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族から話を良く聞き取り組んでいる。判断困難な場合は、理念を思い返し「もし自分なら。もし自分の身内なら。」と考えた上、「この人はどうしたいか。」と利用者の立場で検討する。また職員の独りよがりにならないよう、職員間で相談することも忘れない。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、担当ケアマネジャー、利用していたサービス事業所等からの情報収集に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の観察と記録、申し送りで把握し、ケアファシリテーターとしての総合的なケアに役立てている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々のコミュニケーションで本人の気持ちや希望を把握すると共に、家族の思いを汲み取り、3ヵ月ごとにケアプランを行いケアプランを見直している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々のケアプランで対応したり、状況が大きく変わった時はケアプランを行いケアプランを変更している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	体温、脈拍、血圧の変動が一目で分かる検温表と日々の状態（感情、行動、行われた介護等）が自由に記録できる書式を使用し、個別の記録により情報の共有ができる。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームは生活そのものなので、本人の状況や希望、家族の都合に合わせて柔軟に対応できている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員を通じボランティアの協力を得て、多彩な訪問や日々の外出が実現できている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	グループホームを利用しながら他の介護保険サービスは利用できない。外泊中は利用できるが利用を必要とするような長期間の外泊は前例がない。職員の努力と家族、ボランティアの協力等で生活が深まるよう努力している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	前例がない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人と家族との納得の上で協力病院をかかりつけ医とし、信頼関係を築きながら適切な医療を受けられている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の医師は認知症専門医ではないが、認知症に対する知識と理解があり、総合的に健康管理の相談に乗り対応してくれる。また専門医受診が必要な利用者には個別に対応し、職員が付き添い治療や相談に応じてもらえている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師であり日々共に居り、些細なことにも即座に対応できる。また協力病院が同じ建物内にあり、夜間、休日も安心できる。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	協力病院に入院した場合は主治医、看護師、理学療法士等と日々情報交換し、早期退院に向けた取り組みを行っている。他病院に入院した場合は、家族を通じ情報交換し、必要であれば担当スタッフ、地域連携室スタッフからの情報収集ができる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>ケースバイケースである。契約時から終末期のあり方を相談する例もあれば、現在が元気なので問いかけても「考えられない」と答えられる例もある。しかし事ある毎に(本人に限らず他入居者の退居を契機に等)全利用者・家族に問いかけるようにしている。また入居時に「重度化した場合の対応」を書面で説明している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>新しい事例に出会うたびにグループホームでどこまで受け入れられるのか、医療(かかりつけ医)とどのように協働できるのかを考え、できる限りその人らしく暮らせる支援を考えている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>十分な話し合いの上、介護要約も活用し、フォローしている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員各自がプライバシー確保の大切さを自覚し、職員同士で注意しあいながら徹底できている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>「どうしたいか」を必ず問いかけて、判断が難しい利用者には選択可能な方法(どちらが良いか等)で問いかけて、自分で考えること、決めること、納得することを大切にしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの気分と体調と、共同生活による良好な集団行動や日課を考慮し、個別対応に心がけている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	日常および外出時の洋服やアクセサリー選び、お化粧の支援をしたり、理美容は馴染みの店を利用している。馴染みの店のない利用者には施設で利用できるほか、白髪染めを職員対応で行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの好みや体調に合わせて支援している。魚が嫌いな人には別メニューとし、嚥下不良や歯の弱い人には刻み食やミキサー食で対応、食欲のない人には間食や家族の差し入れの導入、たまには外食等。そして季節の食材を導入し、皆で準備し、食べ、後片付けをする。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	過去に夕食時のビールが日課の人、寝酒が飲みたい人等が居り、支援していた。そのほかコーヒー、紅茶、便秘対策のヨーグルト飲料、おやつ(自分が食べたい、他入居者にあげたい)果物等、日常的に支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し時間誘導したり、出掛ける前後に誘導することでオムツ使用を最小限にしている。夜間の安心、放尿対策等によるポータブルトイレの利用も併設施設の協力の下実践している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日対応しているが、リクを考慮し時間帯は職員配置の多い日中にさせてもらっている。風呂好きの人、苦手な人、午前、午後、入浴禁止で清拭対応の人等のバランスを考慮し、生活の流れもくんで支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	早く床に入りたい人、寂しいので居室へ行きたくない人、寝る前に何か飲みたい人(お酒、お茶等)、一人でゆっくり見たい人等 個別対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの性格や特技, 習慣を情報収集して対応。その人らしい役割を見つけて支援している。(家事が得意な人, 細かい手作業が好きな人, 農作業が得意な人, 買い物が好きな人等) また, なるべく外出を支援し閉じこもりを防ぎ, 季節行事やお楽しみの行事も取り入れている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの能力と希望に応じ, 常時自分でお金を持っている人, 外出時(必要時)のみお金を持てる人, お金は使えないが品物を選ぶことができる人等, 個別対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	川びり通院を利用して, 毎日全員が日課としてグループホーム外に出掛けている。天気や用事(必要な買い物)により全員や個別で散歩, 喫茶店, 買い物に出掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	娘や孫のプレゼント選びや自分用のお茶碗購入といった個別の買い物に対応したり, 選挙に出掛ける, 戦没者合同慰霊祭に出掛けるといった支援を職員対応で行っている。また家族の協力によりお墓参り, 同窓会, 発表会等の外出支援ができています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じ各居室に電話を設置でき, いつでも連絡できる安心感を持ってもらえる。また電話のかけ方が分からない人には代わりにかけてあげたり, 電話では忘れてしまうので家族に手紙を送ってもらうよう依頼する等の支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者には気兼ねなく長居ができるよう気持ちよく話ができるよう全職員が心得ており, お茶を出したり一緒にコミュニケーションをとっている。地の利もあり面会者は多く, 入居によって馴染みの人間関係が損なわれることは少ない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>資料を事務室に置いているほか、勉強会を通じ職員全員が自覚し、身体拘束をしないケアを努力している。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>居室には鍵はない。 運営者及び全職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、土地柄や建築上の安全面からエレベーターと非常階段にセキュリティシステムを採用している。</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に行っている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>何もかも取り上げたり隠すのではなく、事例に応じて様子を見たり目に触れないようにし、危険を回避している。 (ヘアプレーを顔にかける、懐炉を破って食べる、ハンドクリームを歯磨きチューブと間違える、顔剃り用剃刀を歯ブラシと間違える等)</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事例に応じ一つ一つ勉強しており、インシデント・アクシデントボードを職員間で共有している。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>病院との連携を職員が熟知しており、良い協力関係にある。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災に関するマニュアルをスタッフ等に常時示しており職員全員が熟知している。法人としての避難訓練も行っている。その他の災害を想定したマニュアルはないが、建物内に医療、福祉施設が混在しており法人全体の連絡体制として確立している。このような特徴から近隣の協力を得る可能性はない。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>入居者間のトラブル、転倒、窒息、行方不明、病状悪化等、一人ひとりに起こりうるリスクを管理者から家族に説明し、納得を得た上で、生活の幅が狭まらないような支援を行っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>記録と申し送りを活用し実践している。 また気になることは些細なことでも管理者(看護師)に声や口頭で伝えている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬剤師が個別に発行する「おくすり説明書」により全職員が理解できる。また特別な薬や副作用、注意点は管理者(看護師)から職員に伝え、気になることは職員から管理者に伝える習慣づけができています。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>食事、運動、睡眠の生活の基本を整え、便秘予防の食材を取り入れたり、飲水をすすめたり、個別に便秘薬の調整やヨーグルト飲料の導入を行っている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後に一人ひとりの能力に応じ、声かけや誘導、見守り、介助を行っている。 定期的に義歯洗浄剤を使用している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事を記録し、全職員が一人ひとりの状態を客観的に把握した上で、利用者の体調、好み、普段の状態に応じて支援している。お茶を飲む機会を多く持ち脱水予防に努めるほか、特に便秘や脳梗塞既往のある利用者には、希望に応じ居室で自由に飲めるようポットにお茶を入れて渡している。また飲水困難な利用者には飲水量を記録していた例もある。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人で取り組んだマニュアルや、県や市から送付される資料を利用し実践している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	普段の食材は併設病院の厨房の契約業者からの仕入れであり、安心できる。グループホームで独自に買い物する機会も多く、賞味期限や保存に留意し、安全に留意している。また台所周りの清掃やまな板、布きんの消毒等を業務に取り入れ徹底している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物玄関は法人建物の玄関でありまた病院玄関でもある。常に清掃され手すりやドアの配慮がある。グループホームは建物の8階であり気軽に出入りできる環境とは言い難いが、玄関には季節の花やポスターによる季節の人形や作品、利用者の作品飾り、親しみやすい雰囲気を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔と明るさ、季節感に心がけている。廊下の壁には利用者の作品や日ごろの様子、季節のものを飾り楽しめる空間作りに努めている。また利用者・職員共に大声を出したり争いの起こらないような配慮を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂にはテーブルが3台あり、普段の食事は人間関係を考慮して席決めをしている。完璧な席決めは困難だが、できるだけ安心して自分の場所を見つけられるよう考慮している。その他リビングを見たり話や作業の都合に合わせ、その都度対応している。またリビングには少し奥まった部分や寝転がれるソファもあり、思い思いに過ごせる環境作りに努めている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はなるべく自宅で使っていた家具や品物を持ち込み安心して過ごせるよう環境づくりを説明し支援している。本人の思いと家族の思いにずれが生じることもあるが、家族愛を感じられ、双方の思いを汲み取り柔軟に対応している。孫の面会が頻回で孫に合わせた居室であったり、量が好きな人も居たりと様々である。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日清掃時に換気し、季節や状態に合わせてその都度換気や空調に留意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全館バリアフリーで要所に手すりが整備されている。年齢や身体能力に応じ滑り止めマットの利用や個別に自助具の使用を勧めている。 しかしグループホームは家であり、浴槽、トイレ、台所、流し、洗濯干し場等当たり前の家のつくりであり、生活リズムを重視している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	「できること」「できないこと」の区別を常に留意し、個別対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の8階という環境で限界はあるが、ベランダと畑(花壇)があり自由に散歩を楽しめる。また役割として畑の水遣り、草抜き、作物を植えたり収穫したり、それぞれの力や個性を生かして活動できている。 花の好きな利用者が自分で選んで購入し植えた花々が次々と咲いており、本人も皆も共に喜び楽しみ感謝している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	----------------------------------